

ポジション： 国内調整員(60%)
担当： ロヒンギャ難民コミュニティ支援事業
所属： 事業チーム
直属部下： なし
事業予算規模： 年間約 3500 万円(ロヒンギャ難民コミュニティ支援事業)
レポートライン： 支援事業マネージャー
主な勤務地： 世界の医療団日本事務局(東京都港区東麻布)
 バングラディッシュへの出張 年 1 回

【 業務目的 】

世界の医療団ネットワークのビジョン、ミッション、バリュー、および世界の医療団日本の戦略、内部規定に沿って、当該事業の東京における業務担当として、事業の円滑な実施を支え、事業目標の達成に貢献する。現地駐在のロヒンギャ難民コミュニティ支援事業コーディネーターを通して、現場のニーズや要望を把握し、世界の医療団日本の内外関係者と広く連携して、必要な資金獲得、助成金及び会計管理、専門的知見やネットワークの開拓・獲得、情報収集を行う。

また、ドナーや支援者、専門家、他団体、他部署など内外に対する証言・提言活動を、担当事業を代表して行い、事業の取り組む課題や教訓について理解を高め、国内での安定した支持基盤の確立・拡大に貢献する。

【 業務内容 】

■ 計画

- ロヒンギャ難民コミュニティ支援事業チームの一員として、当該事業の長期ビジョン、新規事業の方向性及び年間計画の設定に貢献する。

■ 事業資金獲得：

- FR 担当者、事業コーディネーターと協力して、長期ビジョンの方向性と親和性の高いドナーを模索し、現行事業内では想定していない活動(例：交流、証言、提言など)に必要な資金調達の見通しを立てる。
- 助成金の新規案件募集があった場合、該当する助成金のガイドラインを入手し、当該助成金がロヒンギャ難民コミュニティ支援事業の資金源に適したものであるか否か、支援事業マネージャーにアドバイスする。
- 助成金応募に際し以下の業務を行う。
 - ◇ 必要な情報を適宜提供し、事業コーディネーター及び FR 担当者を補佐する。
 - ◇ 現地予算をレビューし、予算費目が助成金の規定に合致したものであることを確認する。
 - ◇ 現行事業の予算消化の実績をもとに、また助成金の上限額を目安に、現地・本部の予算を統合した事業全体の予算の作成を行う。

◇ 応募書類の提出前に、応募書類が助成金のガイドラインの要件を満たしていることを確認する。

■ 助成金管理:

- 事業実施・終了における助成金管理規定に精通し、規定を遵守するための内部の体制づくりを行う。
- 事業部会計担当と連携して、計画または予算変更・調達・資機材管理・契約・会計・報告の内部手続きが、当該事業に対するすべての助成金の規定に沿ったものであることを確保する。
- 世界の医療団日本の現地事務所およびパートナー団体において、助成金の管理規定に沿って遵守すべき要件や手順について適宜わかりやすく情報を共有し、現地事務所及びパートナー団体における内部手続きの整備についてコンプライアンスの観点から助言する。
- 助成金管理規定に基づきパートナー団体に遵守を求めるべき事項を整理する。事業コーディネーター、支援事業マネージャーと相談の上、現地パートナー団体に対する MoU 及び契約書類を起案する。
- 事業コーディネーターと連携して、現地事務所及びパートナー団体によって適切に助成金管理がなされていることをパートナー団体からの会計報告書及び現地会計監査を通して確認する。
- 総務・経理マネージャーと協力して、東京における共通費のロヒンギャ難民コミュニティ支援事業への割り当て及び後方支援管理費の計上が助成金管理規定に沿って行われることを確保する。
- 事業コーディネーターと連携して、ドナーに対する各種報告書や申請書を適宜提出する。
- 事業に関するファイルをわかりやすく管理し、必要書類が規定される年まで保管されることを確保する。
- 総務・経理マネージャー及び事業コーディネーターと協力して、会計監査の準備と実施及び事後対応を行い、事業コーディネーター及び支援事業マネージャーと相談の上、監査報告書で指摘された事項について対応策・改善策を講じ、助成金管理の体制や手続きを整備する。

■ 会計業務:

- 事業予算のうち、本部支出分の予算を作成、管理し、経理手続きを行う。
- 事業コーディネーターと連携して、現地支出に関して必要な会計処理を行う。
- 必要に応じ、東京において調達を行う。
- 事業会計担当者と連携して、毎月事業全体の会計報告書を作成する。自己資金も含め、資金源別に事業全体の予算の消化率を分析し、予算と 20%以上の相違がある場合はその理由を把握し、予算の執行について対応策を事業コーディネーター・支援事業マネージャーに提案する。
- 事業コーディネーターと連携して、送金スケジュールと現地における予算消化率に基づき、現地事務所及びパートナー団体に適宜送金を行う。

■ 対外関係:

- ロヒンギャ難民及びその関係国(ミャンマー、バングラデシュほか)に対する日本政府の動向を把握する。
- 世界の医療団日本を代表し、JPF のロヒンギャ難民ワーキンググループに参加する。
- ロヒンギャ難民支援に携わる他団体と適宜連携し情報収集を行う。
- そのほか、関連する内外のコーディネーション・ミーティングに参加する。

■ 提言・証言活動

- 世界の医療団日本の証言活動・広報担当者と連携し、ロヒンギャ難民やその他事業に関する広報・証言活動に協力する。

- ロヒンギャ難民コミュニティ支援事業コーディネーター及び支援事業マネージャーと協力し、日本政府の立場や方針を踏まえ、世界の医療団日本としての提言活動の可能性を模索する。
 - 事業のデータや分析を提言活動に活用する。
- 世界の医療団日本の中期計画・事業戦略の策定・実現への貢献：
- 世界の医療団日本の中期計画・事業戦略の策定・実施に関する議論に参加し必要な業務に対応する。
 - 適宜、他事業との情報共有連携を図る。